

<b>Title</b>	コメント
<b>Author</b>	鳥居, 朋子
<b>Citation</b>	大阪市立大学大学教育. 17 卷 2 号, p.49-51.
<b>Issue Date</b>	2020-04-30
<b>ISSN</b>	1349-2152
<b>Type</b>	Departmental Bulletin Paper
<b>Textversion</b>	Publisher
<b>Publisher</b>	大阪市立大学大学教育研究センター
<b>Description</b>	
<b>DOI</b>	10.24544/ocu.20200622-009

Placed on: Osaka City University

■ コメント

## コメント

鳥居 朋子  
立命館大学 教育開発推進機構 教授 大学評価・IR室 副室長

TORII, Tomoko

### 1. はじめに

お二人の先生の興味深いご報告をお聞きし、たいへん勉強になりました。本当におもしろいなと思って聞かせていただきました。

お二人のご報告は、それぞれ焦点も違いますし、観点も異なっていたかと思います。そこで、私からのコメントを考える上で、基調講演でお話した内部質保証システムの枠組みにお二人のご報告の内容を位置付けながら伺っておりました。

金子先生のご報告は、大学基準協会の大学基準で言いますと、各学部・研究科における学習成果・教育課程の領域はもちろんですが、社会連携のことも一部含まれており、そういった領域のグッドプラクティスだと思って伺っておりました。

荒井先生のご報告は、まさにどのように教育・研究や、その環境を整備して行きながら、各学部・研究科の学習成果や教育課程にプラスの効果をもたらせるのかという点にご関心がおありなのではないかと思ひ伺っておりました。

### 2. 金子報告について

金子先生は謙遜していらっしゃったのですが、まず授業がたいへんおもしろそうで、学生さんがとても楽しいだろうなと思っておりました。

その上で後で教えていただけたらありがたいなと思ったことがございます。小中学生のサマーラボをアウトリーチの一環でやっておられるということなのですが、これは先生が担当していらっしゃる学生さん、大学院生さんも関与していらっしゃるのかということです。もし関与していらっしゃるのであれば、どうい

う教育効果を狙っていらっしゃるのでしょうか？ 先ほどの講演で私が申し上げた、アウトリーチ活動が翻って教育改善にどう貢献しているのかという問いへの答えになるように思いました。

もう一つは大変細かいことですが、フィードバックは早ければ早いほどいいというのは、まさにそのとおりなのですが、e-learningの結果はその場で学生さんと共有していらっしゃるのかどうかというのが少し気になったところです。

本学は「manaba+R」というシステムを使っておりまして、アンケート機能も搭載されています。卑近な事例で恐縮ですが、私の担当した大規模講義ではその場でアンケートの回答状況をスライドに映して、ライブで共有しました。そうすると、学生さんたちは各自のスマートフォンからアクセスして回答するまでであるという間ですから、回答率も見見る上がっていきます。その場ですぐにフィードバックをすると、授業アンケートに参加している感覚が非常に高まるようです。評価疲れという印象はなく、実際に自分たちは授業のアセスメントに関与しているという気持ちが強くなるので、この方法は良いと思って継続しています。

それから先生がおっしゃったプロセス評価、いわゆる形成的評価の重要性というのは、まさにそのとおりだと思います。例えば期末試験等の一回の機会で総括的に評価するという方法は、おそらくこれからは減っていくのではないかと思います。毎回毎回、学生の学びの成果の可視化を行って、その都度に学生自身も自分の学びを振り返る。そうやって評価を通じて、自律した学習者に育っていくことを促すことが非常に重要なだろうなと思ひました。

さらに組織的な取り組みとしまして、カリキュラム策定委員会と評価委員会を分けられたということは、僭越ですが賢明なご判断だったと思いますし、入試改革とカリキュラム改革とFD改革の三本柱で進めてらっしゃるということは、非常に効率的かつ持続性の高い方法だと感じました。

その上で単なるオムニバスではなく、3人同時に講義をしていらっしゃるということを非常に興味深く拝聴しました。私自身は先生の専門から遠い素人ですので、内容についてはよく存じ上げないのですが、先生たち3人がやっておられることを、例えば先生のご所属の組織では、DP(ディプロマ・ポリシー)であるとか、CP(カリキュラム・ポリシー)、AP(アドミッション・ポリシー)にどう位置づけられているのかというのがやや気になりました。つまり、個々の先生がそれぞれの工夫によって新しく興味深い取り組みを展開されているのは素晴らしいことだと思うのですが、それらを組織としてどのように公認し位置付けているのかということ、もう少し教えていただけるとありがたいなと思いました。

### 3. 荒井報告について

先ほどご挨拶をさせていただいたときに少しお話ししたのですが、実は私はアカデミックポストに就く前に図書館司書を務めていた経験がございます。大学の附属図書館での経験もありますし、公立図書館も経験がございます。ですので荒井先生のご報告でおっしゃっていたことがらが手にとるようわかりましたし、共感いたしました。図書館というのは本当に利用者に使っていただかないと意味がありません。紙資料もそうですし、データベースもそうですし、視聴覚資料もそうなのですが、それらをどうやって利用者と結びつけるか、そして結びつけた後にそれらの資料を有効に利用してもらっているかどうかをいかに検証するかというのは、本当にどこの図書館にもついて回る大事な論点だなと思いつつ、興味深く伺っていました。

さらに荒井先生ご自身がおっしゃっていましたが、業務統計から改善のための指標開発へと、学生のニーズや利用者の満足度調査に移行しておられるのは非常に良い取り組みだと思いましたが、利用者アンケート

調査というものもさまざまな観点から分析されていて、たいへん興味深い結果が明らかになっていたと感じます。

その上で私があえて気になったことと申しますか、少し仮説的なコメントになるのですが、例えば入館者数や貸出冊数減少の原因を考えた場合に、学生の学習スタイルの変化も要因ではないかと捉えておられる部分があったのですが、その一方で各授業とか、ゼミとか、演習とかの教授法や課題の与え方みたいなものも関わっている可能性があるのではないかという見方です。つまり教員サイドが学生の学習スタイルをある程度規定している場合もあるのではないかと仮説です。

どうしてそういうふうになるかと言いますと、私自身が立命館大学で担当している教養科目の一つですが、教育学の概論的な比較的大きな規模の授業があります。さまざまな学部を担当していますので、同じコンテンツで同じように講義をやっても、全くリアクションが違ったり、学生さんたちの書いてくるものが違ったり、あるいは読んでくるものが違ったりということ、日々実感するところなのです。

先ほど工学部、商学部と文学部とでは利用状況が違うということがありましたが、まさにそのとおりで、本学の文学部の学生さんという限定つきですが、非常に「文章」が好きです。つまりは本が好きなので、読むことをいとわないという感じです。ですので同じ内容で講義したとしても、彼女・彼らは参考文献の情報を教員に求めてきます。恐らくそういう学生さんたちには、図書館の資料にこういうものがあるからお勧めですよと伝えれば、割とすっと入っていくと思うのですね。

一方でびわこ・くさつに理工学部があるのですが、あちらの学生さんは、むしろデータであるとか、情報に基づいて、ロジックに考えるということに長けているタイプが多いように思いますので、紙資料よりも政府統計のようなものを自分でダウンロードして分析したりしてくるわけですね。それはそれで私は良いと思っています。それぞれの専門分野と結びついた形で教養教育を深めるというアプローチが大切だろうと思いますので、教育学の概論という一つの科目であって

も、アプローチは多様で良いという考え方ですね。

学生さんの学習スタイルは不変的なものではなくて、高校時代や大学時代に受けた周りからの影響とか、友達の影響とか、あるいは教員との出会いや課外活動での出会いというものが結構影響しているのではないかと思います。もし何かそういうものが探れるのであれば、関係性を調べられるとおもしろい結果が出るのではないかなと思いました。

そういう意味では量的な調査というのは非常に魅力的なのですが、フォーカスグループなどを併用して、何人かの学生さんにインタビュー調査を試みるのも有効かと思います。まず、学情センターで何をしていますか、利用しないのであればどうして使わないのですか、あるいはどのような条件があれば利用するのですかということ等を尋ねてみる。つまり学情センターという場において、滞在状況だけをみるのではなくて、学生さんたちは何をしているのかを把握することから始めると、いろいろと興味深いことが見えてくるのではないかなと思いました。学生調査とフォーカスグループとの併用は本学でも実施した経験があります。

また学部ごとの参考資料の探し方の残差分析などは本当におもしろいと思いましたし、可能であればそれぞれの学生さんが受けている授業や授業で出されている課題の種類を把握して、それらとの関係性が調べられればさらにより具体的な支援のあり方が見出せるのではないかなと思いました。

以上